白銀中

思考力・判断力・表現力を養うための指導方法の研究

～各教科・領域の特性を踏まえた語彙力の向上を通して～

（３年計画の３年次）

校長　　高　橋　　健

１　研究主題について

本校の努力目標の一つである「目標を持ち、粘り強く学習に取り組む生徒」に迫るため上記の研究主題を設定した。今年度は３年計画の３年次である。

昨年度は、各教科・領域ごとにそれぞれの特性に応じて、どのような言語活動が生徒にとって適するものであるかを探った。教科を越えて情報を共有し、共通実践できる部分を明らかにしていく中で、語彙力の不足から相手が伝えようとしている内容を理解できていない生徒が多いことが、普段の授業や定期テスト等で明らかになった。そのため、音読や復唱の継続と同時に、新聞等を活用した意見発表や意見交換を行い、言語活動に焦点を置いて取り組んだ。

今年度は、前年度の取組を継続すると共に、「説明すること」に対する達成率が低かったことも踏まえ、相手からの情報を基に自分自身の考えを深める思考力や、自分の意見を相手に分かりやすく伝えるための表現力を身に付けさせるために、基礎となる語彙力の向上を通して研究を進めていく。

２　研究のねらい

情報を基に考えを深める思考力や、意見を相手に分かりやすく伝えるための表現力を身に付けさせるために、各教科・領域の特性を踏まえ、基礎となる語彙力を向上させることを通して、生徒の学力向上および教師の授業力向上を図る。

３　研究仮説

各教科・領域において、授業での目標（ねらい）を絞り、評価基準を明確にする。語彙力向上を目指した振り返りの場面を設定し、自らの言葉を用いて考え、他者に説明し、発表すること等を通して、「思考力・判断力・表現力」を養うことができる。

４　研究内容

(1) ア　各教科・領域ごとに、思考力・判断力・表現力を養うために効果的であると思われる語彙力を高めるための方法を考え、日々の授業実践を通して検証する。

イ　教科内での教員相互の授業参観（７月・１０月、全員参加）を通して、同じ研究に向かう。教員相互の同僚性を高め、アの方法についての検証を深める。

ウ　授業では、その日学習する課題や目標の可視化、振り返りの文字化を全教員で進め、振り返り場面では、生徒の言葉でまとめる場面を設定する。

(2) 新聞や一人一台端末を活用し、時事や地域のことについて知る活動を通して、語彙力を 増やす。また、一般研修の中では語彙力向上の一つの手段として、一人一台端末を活用していけるよう、教員のスキルアップを図る。

(3) 研究テーマに沿った内容のアンケートを生徒及び教員に行い、その結果を共有する。

５　研究の経過

(1) 研究仮設に基づく授業研究

月	日	例）学年・授業者等	例）全体会等
４	２８	校内研究テーマに向けての各教科での進捗状況の確認	教科部会
５	１３	市教育委員会教育指導課・市総合教育センター計画訪問 （授業公開・指導助言）	教科部会
６	１０	校内研に関わるアンケート実施・集計	生徒・教員
７	５～７	第１回校内研究テーマに向けての各教科の授業研究	教科部会
７	７	授業参観１回目の研究協議	教科部会
１０	５～８	第２回校内研究テーマに向けての各教科の授業研究	教科部会
１０	１８	授業参観２回目の研究協議	教科部会
１１	３０	領域部会（今年度の研究成果と課題）	領域部会
１２	１	教科部会（今年度の研究成果と課題）	教科部会
１２	３	校内研に関わるアンケート実施・集計	生徒・教員

(2) 一般研修

月	日	例）内容・講師・概要等
４	１８	校内研修についての共通理解
６	１０	「１人１台端末活用」一般研修 演題「GIGAスクール構想の実験に向けて」～各学校ができること～ 講師　八戸市総合教育センター　主任指導主事　大下　洋一　氏
２	２２	今年度の研究のまとめと次年度に向けて

６　研究の成果

(1) 各教科の担当同士が相互に授業参観することにより、教材理解、生徒理解を深め、同僚性を高めることができた。語彙力の向上への取組や振り返りの仕方について話し合った。振り返りでは、語彙力向上を考え新出語句を入れて書かせたり、生徒が自らを振り返る手立てを工夫したりする姿が見られた。また、授業を進めるうえで、全教科での目標掲示、ユニバーサルデザインを意識した掲示物の厳選を行った。

(2) 新聞の語句調べや「読み聞かせ」の活動を通して、新しい語句に触れたり、文章での使い方を学んだりして、語彙力を高めることができた。一人一台端末を日常でも利用して、授業レポートや、自己評価、動画、クラスルームなど各教科の特性に応じた利用の仕方を考えて、実践した。

(3) 研修テーマに沿った生徒・教員共通のアンケート調査の結果から、３年間を通して少しずつ向上しているが、中でも「人の発表や意見を聞いて理解すること」が向上した。

７　研究の課題

様々な活動を通して、新しい語句を手に入れたものの、語句を定着する力や、語句を用いて内容を理解したり、説明したりすることが困難である生徒がまだ多く見られる。今後は、基礎・基本を定着させ、思考力・判断力・表現力を高めるための土台作りが必要である。

（記入者　石屋　純子）